

厚真の福祉仮設住宅公開

特養ホームと障害者支援施設が入居 来年1月に引っ越し

胆振東部地震

道は26日、胆振東部地震で被災した厚真町の特別養護老人ホーム「豊厚園」と障害者支援施設「厚真リハビリセンター」―社会福祉法人北海道厚真福祉会運営―の入所者計108人を受け入れる福祉仮設住宅を公開した。福祉施設の機能を備えた大型の福祉仮設住宅の建設は全国初。



入所者が寝たまま利用できる浴室

新町パークゴルフ場敷地内で、10月下旬から建設していた。プレハブ平屋建ての居住棟5棟には4人部屋27室、食堂、多目的トイレ、浴室などを配置。集会所棟1棟には入所者がストレッチャーで寝たまま利用できる浴室や厨房（ちゅうぼう）、職員室、仮眠室など整備した。各棟は渡り廊下で結ばれている。建築面積は約3600平方メートルで、全棟バリアフリー。壁の断熱材は通常の2倍の100ミリにし、火災報知器やスプリンクラーも各所に備えた。道は28日、同町に鍵を引き渡す。道内各地で避難生活を

送る入所者の引っ越しは来年1月に行われる見通し。

一方、安平町でも追分白樺地区に福祉仮設住宅を建設。町内の別の福祉施設に避難している特別養護老人ホーム「追分陽光苑」―社会福祉法人追分あけぼの会運営―の入所者36人が、来年1月17日から入居予定になっている。福祉仮設住宅の入居期間は2年間。両法人は現施設の復旧を断念し、移転新築を計画している。